

高 速 横 浜 環 状 北 線

[横浜市都筑区川向町～鶴見区生麦二丁目]

事 後 調 査 計 画 書

概 要 版

平成 15 年 7 月

首 都 高 速 道 路 公 団

1. 事後調査とは

横浜環状北線では、大気汚染、騒音等の環境項目について、供用開始前（工事期間中等）及び供用開始後における調査を実施し、その調査結果を踏まえて、必要に応じて適切な措置を講じます。

これらの作業を「事後調査」と呼んでおり、環境影響評価の一環として「横浜市環境影響評価条例」にもとづき図 - 1 のとおり進めます。

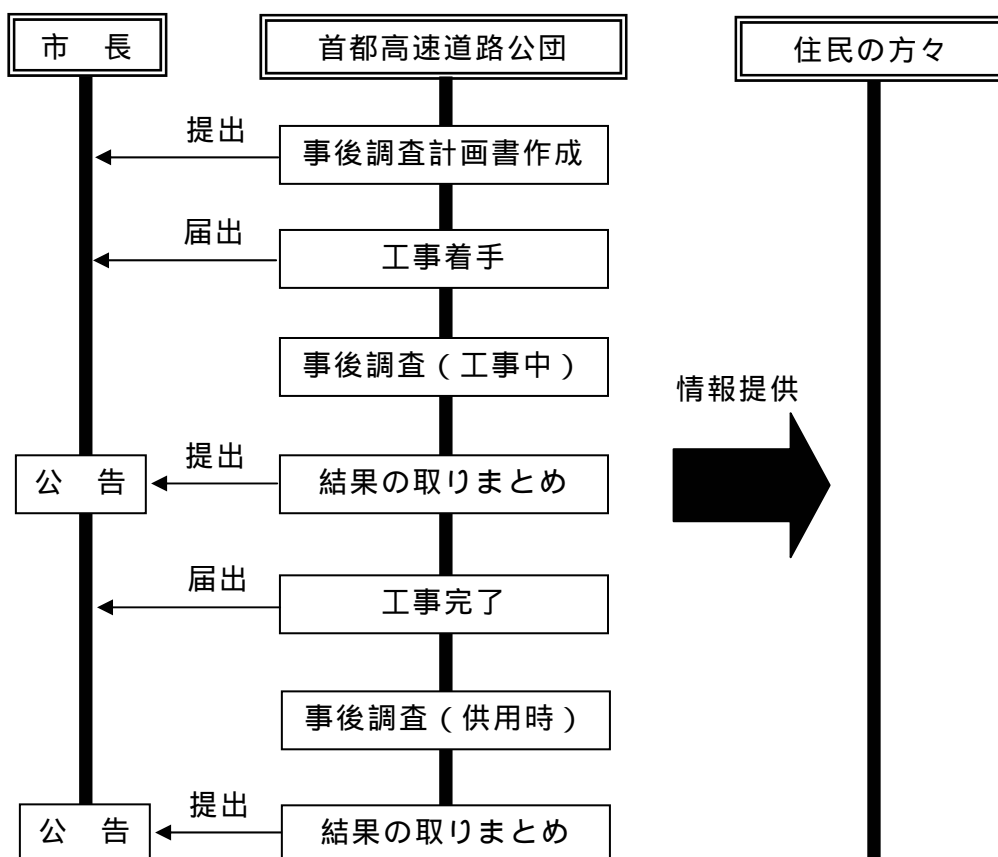


図 - 1 事後調査流れ図

2 . 事業者の氏名及び住所

1) 事業者の氏名

首都高速道路公団 理事長 橋本 鋼太郎

2) 事業者の住所

東京都千代田区霞が関一丁目 4 番 1 号

3 . 対象事業の概要

1) 事業の名称

高速横浜環状北線

2) 事業の所在地

起点 : 横浜市都筑区川向町

終点 : 横浜市鶴見区生麦二丁目

3) 道路の規模

延 長 : 約 8.2km

道路規格 : 第 2 種第 1 級

車 線 数 : 往復 4 車線

幅 員 : 19m

設計速度 : 60km/時

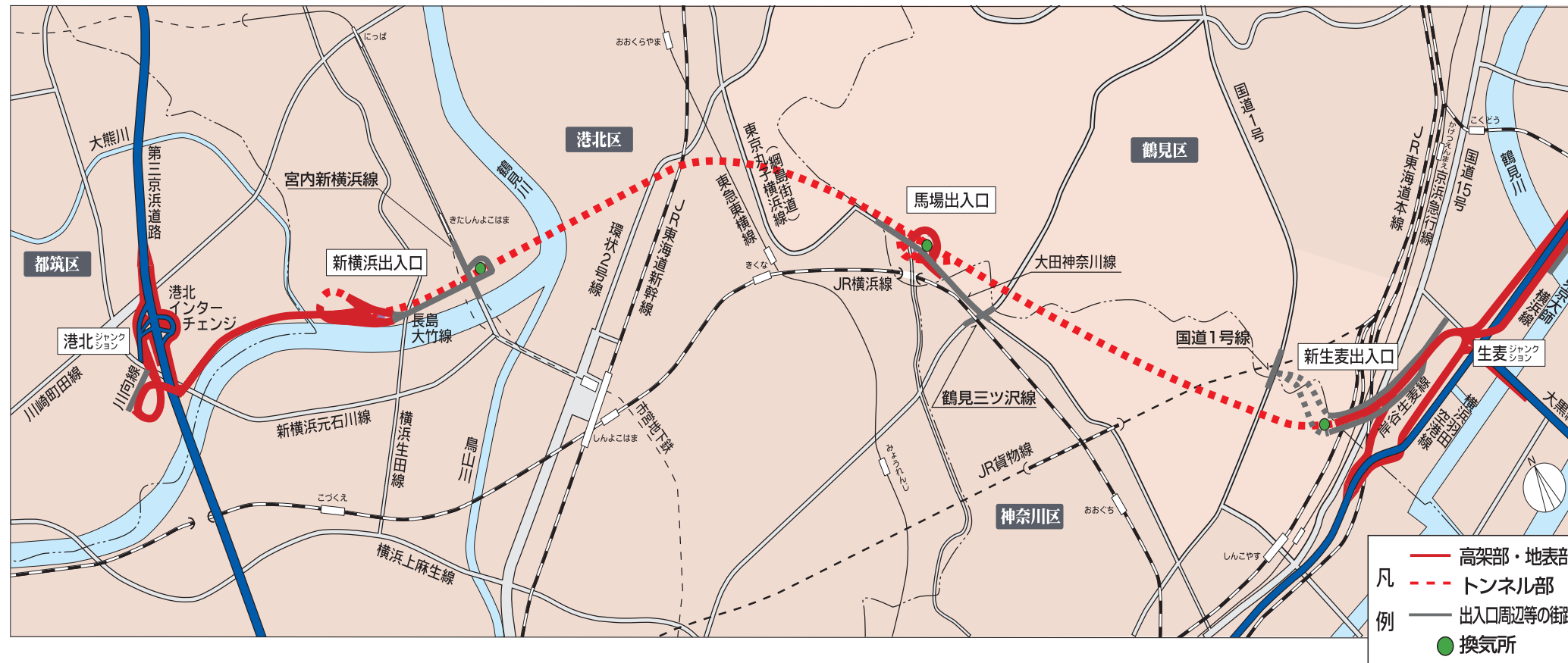
4) 道路構造の概要

計画路線の平面図及び縦断図は図 - 2 に示すとおりです。

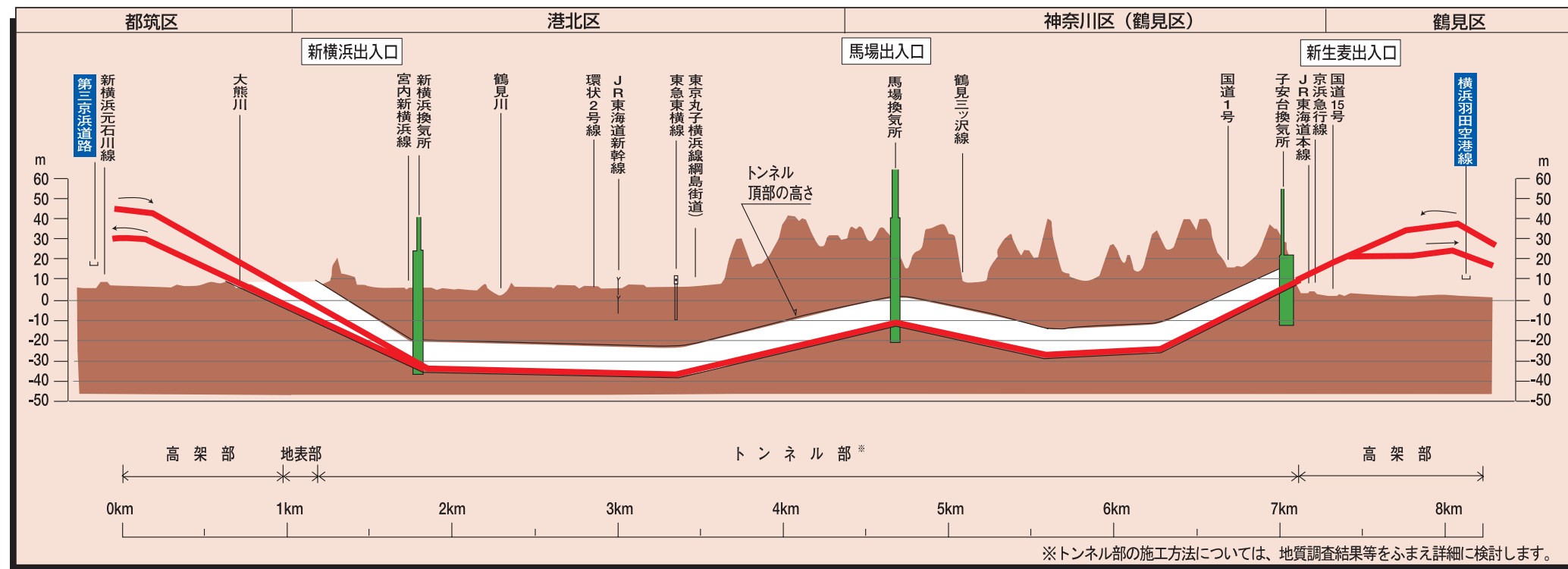
トンネル部には、新横浜、馬場及び子安台の 3 箇所換気所を計画しています。

なお、生麦ジャンクション以外のジャンクション、出入口、換気所の名称は、いずれも仮称です。

■北線及び出入口周辺等の街路 位置図



■縦断図 (縦断図は縦横比を変えてあり、高さは東京湾の平均的な海面高さを基準として表示しています。)



港北ジャンクション、各出入口、各換気所の名称は仮称です。

図-2 計画路線の平面図及び縦断図

4 . 対象事業に係る事後調査の項目及び手法、調査を行う期間

1) 事後調査の基本的な考え方

事後調査の基本的な考えは、以下に示すとおりです。

なお、評価書における全ての選定項目について対象とします。

環境保全対策等の遵守状況の把握

- ・ 評価書の記載内容の全般にわたって、その遵守状況を把握する調査を行います。調査は、関係資料の収集・整理及び現地確認の方法等により、評価書に記載されている環境保全対策等の遵守状況を確認します。

環境影響の把握

- ・ 実施した環境影響評価の全ての項目において、環境に及ぼす影響が比較的著しいと想定された環境影響評価項目、予測評価において不確実性が大きい環境影響評価項目を選定し、評価書で示した予測・評価結果と比較・検証できるように、当該事業が及ぼす環境影響を把握する調査を行います。
- ・ 調査は、原則として、評価項目は予測項目、調査地点は予測地域の代表的な地点又は予測地点、調査時期は予測時期、調査方法は調査で使用した調査方法を選定します。

2) モニタリングについて

大気汚染、道路交通騒音、地盤沈下等に関するモニタリングについて以下のよう
に考えます。

- ・ 対象道路に関する大気汚染、道路交通騒音等調査結果について関係機関と協力しつつ、適宜公団のホームページ、お知らせ等にて情報提供を行います。
- ・ 地盤沈下や地下水影響防止に関して、トンネル工事に先立ち実施するボーリング調査及び、専門家の意見等を踏まえ適切な工法を選定します。なお、関係機関との協議の上適宜公団のホームページ、お知らせ等にて情報提供を行います。

なお、本計画書送付後、環境保全上特に配慮する必要がある場合には、横浜市環境保全局と協議の上、適宜必要な調査計画等を策定し、実施します。

3) 事後調査の項目

選定した事後調査項目は、表 - 1 に示すとおりです。

表 - 1 事後調査項目

項目		環境要素	
環 響 影 響 評 価 項 目	大気汚染	工事中	建設機械の稼働、工事用車両の走行
		存在・供用	自動車の走行、換気所の稼働
	水質汚濁	工事中	工事に伴う排水
	騒音	工事中	建設機械の稼働、工事用車両の走行
		存在・供用	自動車の走行、換気所の稼働
	振動	工事中	建設機械の稼働、工事用車両の走行
		存在・供用	自動車の走行、換気所の稼働
	地盤沈下	工事中	地下掘削
	超低周波音	存在・供用	自動車の走行、換気所の稼働
	電波障害	存在・供用	嵩上式構造物、換気所施設の存在
	日照障害	存在・供用	嵩上式構造物、換気所施設の存在
	廃棄物	工事中	土地の造成、建設廃材の発生、建設発生土の発生
	水象	工事中	地下掘削
		存在・供用	土地の改変
	植物・動物	工事中	土地の造成、工事に伴う排水
		存在・供用	土地の改変、嵩上式・地表式・掘割式構造物の存在
地域社会	工事中	土地の造成、工事用車両の走行	
	存在・供用	土地の改変、地表式・掘割式構造物の存在、自動車の走行	
景観	存在・供用	嵩上式・地表式・掘割式構造物、換気所施設の存在	
文化財	存在・供用	土地の改変	

4) 事後調査計画のまとめ

事後調査の概要は、表 - 2 に示すとおりです。また詳細な事後調査計画の内容一覧は、表 - 3 に示すとおりです。また、事後調査の代表的な調査位置として、自動車の走行、換気所の稼働による大気汚染、騒音及び振動の調査位置を図 - 3 に示します。

表 - 2 事後調査の概要

環境項目	主な環境影響の調査概要	環境影響の把握				
		工事着手前	調査時期			供用開始後
			工事期間中			
		初期	中期	後期 (工事完了後、 供用開始前)		
大気汚染	予測・評価地点である 都筑区川向町、 港北区新羽町、 鶴見区馬場一丁目、 鶴見区岸谷一丁目、 鶴見区生麦一丁目及び換気所周辺の3箇所において大気質濃度（NO ₂ 、CO、SO ₂ 、SPM）を調査します。					
	周辺地域の大气汚染状況の推移を把握するため、北線沿道のバックグラウンド濃度の変動状況を調査します。					
水質汚濁	工事によって発生する濁水の処理施設等の排出口で、処理水の水質を調査します。					
騒音	工사용車両の走行及び建設機械の稼働による騒音レベルを調査します。					
	予測・評価地点である 都筑区川向町、 港北区新羽町、 鶴見区馬場一丁目、 鶴見区岸谷一丁目、 鶴見区生麦一丁目及び換気所周辺の3箇所において騒音レベルを調査します。					
振動	工사용車両の走行及び建設機械の稼働による振動レベルを調査します。					
	予測・評価地点である 都筑区川向町、 港北区新羽町、 鶴見区馬場一丁目、 鶴見区岸谷一丁目、 鶴見区生麦一丁目及び換気所周辺の3箇所において振動レベルを調査します。					
地盤沈下	トンネル区間周辺の地下水の水位、地盤の変位及び家屋等の損傷の有無等を調査します。					
超低周波音	現地調査地点である 都筑区川向町、 鶴見区生麦一丁目及び換気所周辺の3箇所において超低周波音レベルを調査します。					
電波障害	高架構造となる区間及び換気所の周辺において、テレビジョン電波の遮蔽及び反射障害の影響が生じる範囲について、電波受信状況を調査します。					
日照障害	高架構造となる区間及び換気所の周辺において、日影が生じる範囲について、冬至日の日影の影響を調査します。					
廃棄物	工事によって発生する発生土量、利用量・処分量、産業廃棄物量及び資源化量・処分量を調査します。					
水象	トンネル区間周辺の地下水の水位、地盤の変位、地下水の水質及び降水量等を調査します。					
	鶴見川、入江川水系における河川の流域面積及び土地改変面積を調査します。					
植物・動物	工事着手前に、植物・動物の生育・生息状況を調査します。なお、工事着手前の調査で貴重な植物・動物が確認された場合は、適切な措置を講じ、工事期間中及び供用開始後まで生育・生息状況を調査・確認します。					
地域社会	工事区域周辺の交通状況を調査します。					
	出入口周辺の交通状況を調査します。					
景観	予測・評価地点である 都筑区川向町、 港北区新羽町、 鶴見区馬場七丁目、 神奈川区子安台一丁目及び 鶴見区生麦三丁目の主要な視点場からの景観の変化の程度を調査します。					
文化財	登録文化財、埋蔵文化財の状況について調査します。					

上記の表は各環境項目における環境影響の調査の概要をまとめたものです。別途、事後調査では、環境影響評価書に記載されている環境保全対策等の遵守状況の調査も行っております。

詳細については、表 - 3 を参照してください。

調査時期について

工事着手前：工事の施工により影響が考えられる場合、また継続的に調査する必要がある場合は工事着手前に調査を行います。

工事期間中（初期）：工事着手後の早い時期に調査を行います。

工事期間中（中期）：工事の最盛期（ピーク時期）に調査を行います。

工事完了後：構造物が完成した状態で調査を行います。

供用開始前：供用開始後の影響と比較するため、供用開始前に調査を行います。

供用開始後：自動車の走行による影響を調査します。

表 - 3(1) 事後調査計画内容

項目	環境要素			調査内容						
				調査項目	調査地点	調査方法	調査時期		頻度	備考
大気 汚染	工事中	建設機 械の稼 働	環境保全 対策等の 遵守状況	防じんを兼ねた鋼製フェンスの設置状況 散水状況（気象条件含む） 住民からの問合せ及び対応状況	～ ： 工事区域毎の代表的 な地点	～ ：作成する詳細な工事計画、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事中	～ ：工事期間中の適切な時期	～ ： 継続（1回/年）	具体的な調査地点・時期は詳細な工事計画、工事区域等が決定した際に適切に設定
				工事用 車両の 走行	環境保全 対策等の 遵守状況	工事工程の平準化によるピーク時発生車両台数の抑制状況 工事区域内の無駄なアイドリング禁止の指導状況 建設機械の排ガス対策型機械の使用状況 土砂運搬車両へのシート掛けの実施状況 タイヤ洗浄の実施状況 適切な整備の励行・過積載の禁止等の指導状況 工事用車両の七都県市指定低公害車の使用状況 住民からの問合せ及び対応状況	～ ： 工事区域毎の代表的 な地点	～ ：作成する詳細な工事計画、搬出入計画、運行計画、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事中	：工事計画を基に、工事区域毎に工事用車両発生 集中台数が最大と想定される時期 ～ ：工事期間中の適切な時期
	存在・供 用	自動車 の走行	環境保全 対策等の 遵守状況	トンネル坑口の流れ出しを抑制する集中排気方式の採用状況 定期的な路面清掃の実施状況 明り部の脱硝対策の検討状況 工事中及び供用後における調査状況（「環境影響の調査」で調査） 住民への情報提供状況	～、 ： 計画路線全域のうち の代表的な地点	～、 ：作成する詳細な設計図書、住民周知資料、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事着手前	：工事着手前の適切な時期	：継続	具体的な調査地点・時期は詳細な換気計画、構造等が決定した際に適切に設定
						工事中	：工事が完了する適切な時期 ：工事期間中の適切な時期	：1回 ：継続		
						存在・供用	：供用開始後の交通量が定常状態になる時期	：1回		

表 - 3(2) 事後調査計画内容

項目	環境要素			調査内容							
				調査項目	調査地点	調査方法	調査時期		頻度	備考	
大気汚染	存在・供用	自動車 の走行	環境影響 の調査	自動車走行による濃度 (NO ₂ 、CO、SO ₂ 、SPM) 気象 (風向・風速・温度・湿度) 対象事業以外のその他の濃度 (NO ₂ 、CO、SO ₂ 、SPM) 交通量 周辺地域の濃度変動状況 (NO ₂ 、CO、SO ₂ 、SPM)	～ : 予測評価した5箇所 : 出入口、ジャンクション間 : 一般局を含む3箇所	: 二酸化窒素 (NO ₂) は、「二酸化窒素に係る環境基準について」(昭和53年 環境庁告示第38号) に基づく方法 (JIS B 7953)、一酸化炭素 (CO)、二酸化硫黄 (SO ₂)、浮遊粒子状物質 (SPM) は、「大気の汚染に係る環境基準について」(昭和48年 環境庁告示第25号) に基づく方法 (JIS B 7951、JIS B 7952、JIS B 7954) を用いて調査 : 地上気象観測指針 (平成14年 気象庁) に定められた方法に基づき調査 : 出入口、ジャンクション間における断面日交通量の調査 : 横浜市の測定結果の活用または実測	工着手前 工事中 存在・供用	: 工着手前の適切な時期 (各四季7日間/年) : 工事期間中の適切な時期 (各四季7日間/年) : 供用開始前の適切な時期 (各四季7日間/年) : 供用開始後の交通量が定常状態となる時期 (各四季7日間/年) : 供用開始後の交通量が定常状態となる時期 (代表的な1日)	: 継続 : 継続 : 継続 : 継続	具体的な調査時期は詳細な設計図書を作成した際に適切に設定	
			換気所の稼働 の遵守状況	環境保全 対策等の 遵守状況	調査検討等の成果を踏まえた、脱硝装置の適用に関する検討状況 浮遊粒子状物質を効率で除去可能な集じん装置の処理能力の確認 ダウンウォッシュが生じにくい構造の配慮状況	～ : 3換気所	～ : 作成する詳細な設計図書、関連資料の収集・整理及び現地確認	工着手前 工事中	: 工着手前の適切な時期 : 工事期間中の適切な時期 : 工事が完了する適切な時期	: 継続 : 継続 : 1回	具体的な調査時期は詳細な換気計画を作成した際に適切に設定
			環境影響 の調査	換気所周辺での濃度 (NO ₂ 、CO、SO ₂ 、SPM) 気象 (風向・風速・温度・湿度) 対象事業以外のその他の濃度 (NO ₂ 、CO、SO ₂ 、SPM) 交通量	～ : 3換気所 : 出入口、ジャンクション間	: 二酸化窒素 (NO ₂) は、「二酸化窒素に係る環境基準について」(昭和53年 環境庁告示第38号) に基づく方法 (JIS B 7953)、一酸化炭素 (CO)、二酸化硫黄 (SO ₂)、浮遊粒子状物質 (SPM) は、「大気の汚染に係る環境基準について」(昭和48年 環境庁告示第25号) に基づく方法 (JIS B 7951、JIS B 7952、JIS B 7954) を用いて調査 : 地上気象観測指針 (平成14年 気象庁) に定められた方法に基づき調査 : 出入口、ジャンクション間における断面日交通量の調査	存在・供用	: 供用開始前の適切な時期 (各四季7日間/年) : 供用開始後の交通量が定常状態になる時期 (各四季7日間/年) : 供用開始後の交通量が定常状態になる時期 (代表的な1日)	～ : 1回	具体的な調査時期は詳細な換気計画を作成した際に適切に設定	
水質汚濁	工事中	工事に 伴う排 水	環境保全 対策等の 遵守状況	河川及び海域における工事の実施状況 沈殿池やpH中和処理施設等の濁水処理施設等の設置状況 濁水処理施設等を設置した場合、関係法令等を遵守した適切な処理状況 濁水処理施設等を設置した場合、工事中における処理水の調査状況 (「環境影響の調査」で調査)	～ : 河川及び海域の施工箇所うちの代表的な地点	～ : 作成する詳細な工事計画、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事中	～ : 工事期間中の適切な時期	～ : 継続(1回/年)	具体的な調査地点・時期は詳細な工事計画、工事区域等が決定した際に適切に設定	
			環境影響 の調査	処理水の水素イオン濃度 (pH)、浮遊物質 (SS)	: 濁水処理施設等の排水口	: 「水質汚濁に係る環境基準について」(昭和46年 環境庁告示第59号) に基づく調査方法 (JIS K 0102、ろ過重量法) に基づき実施	工事中	: 工事計画を基に、工事区域毎に工事に伴う濁水及びアルカリ性排水が最大と想定される時期 (代表的な1日)	: 1回	具体的な調査時期は詳細な工事計画を作成した際に適切に設定	

表 - 3(3) 事後調査計画内容

項目	環境要素		調査内容							
			調査項目	調査地点	調査方法	調査時期	頻度	備考		
騒音	工事中	建設機械の稼働	環境保全対策等の遵守状況	防音を兼ねた鋼製フェンスの設置状況 低騒音工法の導入状況 低騒音型機械の導入状況 建設機械の適切な配置に配慮した工事実施状況 住民からの問合せ及び対応状況	～： 工事区域毎の代表的な地点	～：作成する詳細な工事計画、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事中	～：工事期間中の適切な時期	～： 継続(1回/年)	具体的な調査地点・時期は詳細な工事計画、工事区域等が決定した際に適切に設定
			環境影響の調査	稼働による騒音レベルの90%レンジの上端値(L ₅) 建設機械の稼働状況	～： 工事区域付近の代表的な地点	：「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」(昭和43年 厚生省・建設省告示第1号)に定められた方法(JIS Z 8731)に基づき調査 ：作成する詳細な工事計画、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事中	：工事計画を基に、工事区域毎に建設機械の稼働による騒音が最大と想定される時期(代表的な1日)	：1回	具体的な調査地点・時期は詳細な工事計画、工事区域等が決定した際に適切に設定
		工事用車両の走行	環境保全対策等の遵守状況	工事工程の平準化によるピーク時発生車両台数の抑制状況 搬出入計画及び効率的な運行計画の実施状況 低騒音舗装を含めた騒音低減対策の総合的な検討状況 住民からの問合せ及び対応状況	～： 工事区域毎の代表的な地点	～：作成する詳細な工事計画、搬出入計画、運行計画、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事中	：工事計画を基に、工事区域毎に工事用車両発生集中台数が最大と想定される時期 ～：工事期間中の適切な時期	：1回 ～： 継続(1回/年)	具体的な調査地点・時期は詳細な工事計画、工事区域等が決定した際に適切に設定
			環境影響の調査	車両走行による等価騒音レベル(L _{req}) 対象事業以外のその他の等価騒音レベル(L _{req}) 交通量(一般車両+工事用車両) 工事用車両の走行状況	～： 予測・評価した5箇所 ：全工事区域	：「騒音に係る環境基準について」(平成10年 環境庁告示第64号)に定められた方法(JIS Z 8731)に基づき調査 ：対象道路の断面日交通量を調査 ：作成する詳細な工事計画、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事中	：工事計画を基に、工事区域毎に工事用車両発生集中台数が最大と想定される時期(代表的な1日) ：調査時期の直前の工事休止日(1日)	～：1回	具体的な調査時期は詳細な工事計画を作成した際に適切に設定
	存在・供用	自動車の走行	環境保全対策等の遵守状況	遮音壁の設置状況 低騒音舗装を含めた各種騒音低減対策の対応状況	：計画路線全域のうちの代表的な地点	：作成する詳細な設計図書、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事中	：工事が完了する適切な時期	：1回	具体的な調査地点・時期は詳細な設計図書を作成した際に適切に設定
			環境影響の調査	自動車走行による等価騒音レベル(L _{req}) 対象事業以外のその他の等価騒音レベル(L _{req}) 交通量	：予測評価した5箇所 ：出入口、ジャンクション間	：「騒音に係る環境基準について」(平成10年 環境庁告示)に定められた方法(JIS Z 8731)に基づき調査 ：出入口、ジャンクション間の断面日交通量を調査	存在・供用	：供用開始前の適切な時期(代表的な1日) ：供用開始後の交通量が定常状態になる時期(代表的な1日)	～：1回	具体的な調査時期は詳細な設計図書を作成した際に適切に設定
		換気所の稼働	環境保全対策等の遵守状況	消音装置の設置状況	：3換気所	：作成する詳細な設計図書、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事中	：工事が完了する適切な時期	：1回	具体的な調査時期は詳細な設計図書を作成した際に適切に設定
			環境影響の調査	換気所の稼働による騒音レベル 対象事業以外のその他の騒音レベル	：予測評価した3換気所の官民境界	：JIS Z 8731に定める騒音レベル測定方法に基づき実施	存在・供用	：供用開始前の適切な時期(代表的な1日) ：供用開始後の交通量が定常状態になる時期(代表的な1日)	：1回	具体的な調査時期は詳細な設計図書を作成した際に適切に設定

注) 存在・供用の「騒音」、「振動」、「超低周波音」の測定は同一の日に実施することを基本とします。なお、騒音の測定箇所は必要に応じて本計画書に示す測定位置で高度別の状況を把握します。

表 - 3(4) 事後調査計画内容

項目	環境要素		調査内容							
			調査項目	調査地点	調査方法	調査時期	頻度	備考		
振動	工事中	建設機械の稼働	環境保全対策等の遵守状況	低振動工法の導入状況 低振動型機械の導入状況 建設機械の適切な配置に配慮した工事実施状況 住民からの問合せ及び対応状況	～： 工事区域毎の代表的な地点	～：作成する詳細な工事計画、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事中	～：工事期間中の適切な時期	～： 継続（1回/年）	具体的な調査地点・時期は詳細な工事計画、工事区域等が決定した際に適切に設定
			環境影響の調査	稼働による振動レベルの80%レンジの上端値（L ₁₀ ） 建設機械の稼働状況	～： 工事区域付近のうちの代表的な地点	：「振動規制法施行規則」（昭和51年 総理府令第58号）に定められた方法（JIS Z 8735）に基づき調査 ：作成する詳細な工事計画、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事中	：工事計画を基に、工事区域毎に建設機械の稼働による振動が最大と想定される時期（代表的な1日）	：1回	具体的な調査地点・時期は詳細な工事計画、工事区域等が決定した際に適切に設定
		工事用車両の走行	環境保全対策等の遵守状況	工事工程の平準化によるピーク時発生車両台数の抑制状況 搬出入計画及び効率的な運行計画の実施状況 住民からの問合せ及び対応状況	～： 工事区域毎のうちの代表的な地点	～：作成する詳細な工事計画、搬出入計画、運行計画、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事中	：工事計画を基に、工事区域毎に工事用車両発生集中台数が最大と想定される時期 ：工事期間中の適切な時期	：1回 ： 継続（1回/年）	具体的な調査地点・時期は詳細な工事計画、工事区域等が決定した際に適切に設定
		環境影響の調査	車両走行による振動レベルの80%レンジの上端値（L ₁₀ ） 対象事業以外のその他の振動レベルの80%レンジの上端値（L ₁₀ ） 交通量（一般車両＋工事用車両） 工事用車両の走行状況	～： 騒音で予測・評価した5箇所 ：全工事区域	：「振動規制法施行規則」（昭和51年 総理府令第58号）に定められた方法（JIS Z 8735）に基づき調査 ：対象道路の断面日交通量を調査 ：作成する詳細な工事計画、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事中	：工事計画を基に、工事区域毎に工事用車両発生集中台数が最大と想定される時期（代表的な1日） ：調査時期の直前の工事休止日（1日）	～：1回	具体的な調査時期は詳細な工事計画、工事区域等が決定した際に適切に設定	
	存在・供用	自動車の走行	環境保全対策等の遵守状況	継ぎ目部分の段差及び路面の平坦性の確保状況 道路維持修繕要綱に基づく供用後の維持管理状況	：計画路線全域のうちの代表的な地点	：作成する詳細な設計図書、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事中	：工事が完了する適切な時期	：1回	具体的な調査地点・時期は詳細な設計図書を作成した際に適切に設定
			環境影響の調査	自動車走行による振動レベルの80%レンジの上端値（L ₁₀ ） 対象事業以外のその他の振動レベルの80%レンジの上端値（L ₁₀ ） 交通量 トンネル地表部の振動レベルの80%レンジの上端値（L ₁₀ ） トンネル地表部の対象事業以外のその他の振動レベルの80%レンジの上端値（L ₁₀ ）	：予測評価した5箇所 ：出入口、ジャンクション間 ：新横浜、馬場、生麦地域の3箇所	：「振動規制法施行規則」（昭和51年 総理府令第58号）に定められた方法（JIS Z 8735）に基づき調査 ：出入口、ジャンクション間の断面日交通量を調査	存在・供用	：供用開始前の適切な時期（代表的な1日） ：供用開始後の交通量が定常状態になる時期（代表的な1日）	～：1回	
換気所の稼働		環境保全対策等の遵守状況	防振装置の設置状況	：3換気所	：作成する詳細な設計図書、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事中	：工事が完了する適切な時期	：1回	具体的な調査時期は詳細な設計図書を作成した際に適切に設定	
	環境影響の調査	換気所の稼働による振動レベルの80%レンジの上端値（L ₁₀ ） 対象事業以外のその他の振動レベルの80%レンジの上端値（L ₁₀ ）	：予測評価した3換気所の官民境界	：JIS Z 8735に定める振動レベル測定方法に基づき実施	存在・供用	：供用開始前の適切な時期（代表的な1日） ：供用開始後の交通量が定常状態になる時期（代表的な1日）	：1回	具体的な調査時期は詳細な設計図書を作成した際に適切に設定		

注) 存在・供用の「騒音」、「振動」、「超低周波音」の測定は同一の日に実施することを基本とします。

表 - 3(5) 事後調査計画内容

項目	環境要素		調査内容							
			調査項目	調査地点	調査方法	調査時期	頻度	備考		
地盤沈下	工事中	地下掘削	環境保全対策等の遵守状況	地質や地下水状況、地盤変状等の調査実施状況(「環境影響の調査」で調査) 家屋や工作物の調査実施状況(「環境影響の調査」で調査) 上記の調査及び地域の状況に応じた適切な設計への反映状況 上記の調査を踏まえた影響の小さい工法の採用状況 上記の調査を踏まえた適切な施工管理への反映状況 調査結果や工法内容等の情報提供状況 被害が確認された場合の適切な措置状況	～ : 計画路線のトンネル区間周辺のうちの代表的な地点	～ :地質や地下水状況、地盤変状、家屋や工作物等の調査結果、作成する詳細な工事計画、設計図書、住民周知資料、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事着手前 ～ :工事着手前の適切な時期(「環境影響の調査」実施後) 工事中 ～ :工事期間中の適切な時期 存在・供用 :供用開始後の適切な時期(1年間) 但し、沈下が継続している場合は沈下が終了するまで	～ :1回 ～ :継続 :継続	具体的な調査地点・時期は詳細な工事計画、工事区域等が決定した際に適切に設定	
			環境影響の調査	地下水の水位 地盤の状況 地盤の変位 家屋等の損傷の有無	～ : 計画路線のトンネル区間を対象に、計画路線端(トンネル端)から40mの範囲を基本	:観測井戸に水位計を設置して、調査を実施 :「調査・設計共通仕様書(土木編)」(平成8年 首都高速道路公団)等に基づき、ボーリング調査、測量調査を実施 :現地調査による目視及び写真撮影等を実施し、確認	工事着手前 ～ :工事着手前の適切な時期 工事中 :工事期間中の適切な時期 存在・供用 :供用開始後の適切な時期(1年間) 但し、沈下が継続している場合は沈下が終了するまで	～ :1回 :継続 :継続		具体的な調査地点・時期は周辺の状況を勘案しながら、工事計画、設計図書等を作成した際に適切に設定
		存在・供用	自動車の走行	環境保全対策等の遵守状況	ジョイント部の入念な施工及び路面の平坦性の確保状況 剛性の高い構造等の採用状況	:計画路線全域のうち代表的な地点	:作成する詳細な設計図書、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事中 :工事が完了する適切な時期	:1回	
				環境影響の調査	自動車走行による超低周波音レベル 気象(風向・風速・温度・湿度) 対象事業以外のその他の超低周波音レベル 交通量	～ : 予測評価した2箇所 :出入口、ジャンクション間	:「低周波音の測定方法に関するマニュアル」(平成12年 環境庁)に示された方法に基づき調査 :「地上気象観測指針」(平成14年 気象庁)に定められた方法に基づき調査 :出入口、ジャンクション間の断面日交通量を調査	存在・供用 :供用開始前の適切な時期(代表的な1日) :供用開始後の交通量が定常状態になる時期(代表的な1日)	～ :1回	具体的な調査時期は詳細な設計図書を作成した際に適切に設定
電波障害	存在・供用	高上式構造物換気所施設の存在	環境保全対策等の遵守状況	電波障害発生地域の受信状況の調査状況(「環境影響の調査」で調査) 供聴施設の設置、個別受信施設の設置、受信施設の移設又は改良等の改善策の実施状況	:高架構造となる区間及び換気所の周辺の電波障害発生地域	:工事中の電波受信調査結果、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事中 :高上式構造物又は換気所施設の完成する適切な時期	:1回	具体的な調査時期は詳細な工事計画、設計図書等を作成した際に適切に設定	
			環境影響の調査	電波受信状況	:高架構造となる区間及び換気所の周辺	:苦情対応の窓口を設置 必要に応じて電波測定車を用いて路上で電波受信状況を調査	工事中 :高上式構造物又は換気所施設の完成までの適切な時期	:1回	具体的な調査時期は詳細な工事計画、設計図書等を作成した際に適切に設定	

注)存在・供用の「騒音」、「振動」、「超低周波音」の測定は同一の日に実施することを基本とします。

表 - 3(6) 事後調査計画内容

項目	環境要素			調査内容						
				調査項目	調査地点	調査方法	調査時期		頻度	備考
日照 障害	存在・供 用	嵩上式 構造物 換気所 施設の 存在	環境保全 対策等の 遵守状況	「公共施設の設置に起因する日陰により生ずる損害等にかかる費用負担について」に基づく措置の実施状況 透光性のある遮音壁の設置状況 住民からの問合せ及び対応状況	～： 高架構造となる区間 及び換気所の周辺に おいて、日影による 影響が生じる地域	～： ：工事中日影の調査、作成する詳細な設計図書、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事中	～： ：嵩上式構造物又は換気所施設の完成する適切な時期	～： ：1回	具体的な調査地点・ 時期は詳細な設計図 書を作成した際に適 切に設定
			環境影響 の調査	設計に基づく日影図等を作成	：高架構造となる 区間及び換気所 の周辺	：目視及び写真撮影等による、日影図の作成、作成する詳細な設計図書、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事中	：嵩上式構造物又は換気所施設の完成する適切な時期（冬至日の1日）	：1回	具体的な調査地点・ 時期は詳細な設計図 書を作成した際に適 切に設定
廃棄 物	工事中	土地の 造成、建 設廃材 の発生、 建設発 生土の 発生	環境保全 対策等の 遵守状況	再利用が可能な廃棄物等の再資源化状況 関係法令等を遵守した廃棄物等の適正な処理・処分状況 発生土における有効利用状況及び処分量の削減状況 発生土の利用及び処分に関する定量的な計画の策定及び実施状況 搬出入計画及び効率的な運行計画の実施状況 土砂運搬車両へのシート掛けの実施状況	～： 工事区域毎の代表的 な地点	～： ：作成する詳細な施工計画、発生土の利用処分計画、搬出入計画、 詳細な設計図書、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事中	～： ：工事期間中の適切な時期	～： 継続（1回/年）	具体的な調査地点・ 時期は詳細な工事計 画、工事区域等が決 定した際に適切に設 定
			環境影響 の調査	発生土量及び利用量・処分量 コンクリートから等の産業廃棄物量及び資源化量・処分量	：工事区域毎の 代表的な地点	：作成する詳細な施工計画、発生土の利用処分計画、搬出入計画、 詳細な設計図書、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事中	：工事期間中の適切な時期	： 継続（1回/年）	具体的な調査地点・ 時期は詳細な工事計 画、工事区域等が決 定した際に適切に設 定
水象	工事中	地下掘 削	環境保全 対策等の 遵守状況	地質や地下水状況、地盤変状等の調査状況（「環境影響の調査」 で調査） 上記の調査を踏まえた止水対策の実施状況 上記の調査を踏まえた適切な施工管理の状況	： 計画路線のトンネル 区間周辺のうちの代 表的な地点	：地質や地下水状況、地盤変状等の調査結果、作成する詳細な工事 計画、設計図書、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事着手前	：工事着手前の適切な時期 （「環境影響の調査」実施後）	：1回	具体的な調査地点・ 時期は詳細な工事計 画、工事区域等が決 定した際に適切に設 定
			環境影響 の調査	地下水の水位 地盤の状況 地盤の変位 地下水の水質（地下水の水質汚濁に係る環境基準項目全て） 降水量	～： 計画路線のトンネル 区間を対象に、計画 路線端（トンネル端 ）から40mの範囲を 基本 ：計画路線周辺	：観測井戸に水位計を設置して、調査を実施 ：「調査・設計共通仕様書（土木編）」（平成8年 首都高速道路 公団）等に基づき、ボーリング調査を実施 ：「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年 環境庁告示第59 号）に定められた調査方法に基づき実施 ：気象庁の測定結果資料、関連資料の収集・整理	工事着手前	～： ：工事着手前の適切な時期 ：工事着手前の適切な時期 （調査の約1週間前から当日）	～： ：1回	具体的な調査地点・ 時期は周辺の状況を 勘案しながら、工事 計画、設計図書等を 作成した際に適切に 設定
			環境影響 の調査	地下水の水質（地下水の水質汚濁に係る環境基準項目全て） 降水量	～： 計画路線のトンネル 区間を対象に、計画 路線端（トンネル端 ）から40mの範囲を 基本 ：計画路線周辺	：観測井戸に水位計を設置して、調査を実施 ：「調査・設計共通仕様書（土木編）」（平成8年 首都高速道路 公団）等に基づき、ボーリング調査を実施 ：「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和46年 環境庁告示第59 号）に定められた調査方法に基づき実施 ：気象庁の測定結果資料、関連資料の収集・整理	工事中	：工事期間中の適切な時期 ：工事期間中の適切な時期 （調査の約1週間前から当日）	、～： 継続	具体的な調査地点・ 時期は周辺の状況を 勘案しながら、工事 計画、設計図書等を 作成した際に適切に 設定
						存在・供用	：供用開始後の適切な時期（1年間） ：供用開始後の適切な時期 （調査の約1週間前から当日）	、～： 継続		

表 - 3(7) 事後調査計画内容

項目	環境要素			調査内容						
				調査項目	調査地点	調査方法	調査時期		頻度	備考
水象	存在・供用	土地の 改変	環境保全 対策等の 遵守状況	既存緑地の改変状況 改変区域で植栽が可能な場合の緑化状況 水路を分断する場合、切廻すなどの対策の実施状況 雨水排水の処理状況	～： 計画路線周辺のうちの 代表的な地点	～：作成する詳細な設計図書、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事中	～：工事が完了する適切な時期	～：1回	具体的な調査地点・ 時期は詳細な設計図 書を作成した際に適 切に設定
			環境影響 の調査	河川の流域面積 土地改変面積	：鶴見川水系、 入江川水系	：作成する詳細な設計図書、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事中	：工事が完了する適切な時期	：1回	具体的な調査時期は 詳細な設計図書を作 成した際に適切に設 定
植物 ・ 動物	工事中、 存在・供用	土地の 造成、土 地の改 変、嵩上 式・地表 式・掘削 式構造 物の存 在、工事 に伴う 排水	環境保全 対策等の 遵守状況	改変面積の状況 改変区域で植栽可能な場所での樹種選定状況及び植栽実施状況 改変区域に生息する大径木の移植状況 工事に新たに貴重な動植物が確認された場合、専門家等から意見 の聴取を行い、現地調査を実施したうえで適切に措置した実施状況 河川及び海域における工事の実施状況 ヨコハマナガゴミムシに対する保全対策の実施状況 子安台公園及び馬場換気所予定地における保全対策の実施状況 鶴見川に沿う区間における保全対策の実施状況	～： 計画路線周辺のうちの 代表的な地点	～：作成する詳細な工事計画、移植計画、設計図書、工実施前・ 工事中・供用後の調査結果、関連資料の収集・整理及び現地確 認	工事着手前	：工事着手前の適切な時期	：継続	具体的な調査地点・ 時期は詳細な工事計 画、工事区域、設計 図書等が決定した際 に適切に設定
			環境影響 の調査	植物相 哺乳類 鳥類 両生類・は虫類 昆虫類 底生動物 魚類 大径木	～： 予測・評価地点を勘 案し、主に改変する 工事区域、計画路線 上とし、必要に応じ てその周辺	：ルート調査による目視確認の調査を実施 ：フィールドサイン調査・トラップ調査を実施 ：ルートセンサス調査・定点観測調査を実施 ：現地調査による個体の採取・目視及び鳴き声による確認調査を実施 ：任意採取調査・トラップ調査（バイトトラップ、ライトトラップ） を実施 ：ネット及び玉網による採取調査を実施 ：玉網による採取調査・目視調査を実施 ：目視による現地調査及び移植した大径木に対する確認調査	工事着手前	～：工事着手前の適切な時期（各四季/年） ：工事着手前の適切な時期	～：1回	
							工事中	～のうち確認された項目： 工事期間中の適切な時期（保全措置を講じた後、定 着するまでの期間）	～のうち確 認された項目： 継続（1回/年）	工事着手前の調査で 貴重な植物・動物が 確認され、移植等の 保全措置を講じた場 合 継続（1回/年）
									存在・供用	
地域 社会	工事中	土地の 造成、 工事用 車両の 走行	環境保全 対策等の 遵守状況	道路機能が損なわれる箇所の迂回路の確保状況 搬出入計画及び効率的な運行計画の実施状況 工事区域内における工事用車両の待機スペースの確保状況 工事箇所のガードフェンスやバリケード、回転灯等の設置状況 工事用車両出入口付近の誘導員の配置状況 生活道路の利用を避けた工事用車両の走行ルートの選定状況	～： 全工事区域のうちの 代表的な地点	～：作成する詳細な施工計画、搬出入計画、運行計画、設計図書、 関連資料の収集・整理及び現地確認	工事中	～：工事期間中の適切な時期	～： 継続（1回/年）	具体的な調査地点・ 時期は詳細な工事計 画、工事区域等が決 定した際に適切に設 定

表 - 3(8) 事後調査計画内容

項目	環境要素			調査内容							
				調査項目	調査地点	調査方法	調査時期		頻度	備考	
地域 社会	工事中	土地の 造成、 工事用 車両の 走行	環境影響 の調査	工事区域周辺の交通状況	: 新横浜、馬場 生麦の3箇所の 工事区域付近	: 工事区域周辺の交通状況の調査、既存資料の収集・整理及び現地確認	工事中	: 工事計画を基に、工事区域毎に工事用車両発生集中 台数が最大と想定される時期（代表的な1日）	: 1回	具体的な調査地点・ 時期は詳細な工事計 画、工事区域等が決 定した際に適切に設 定	
				存在・供 用	土地の 改変、地 表式・掘 割式構 造物の 存在、自 動車の 走行	環境保全 対策等の 遵守状況	道路機能が損失する箇所の代替道路等の設置状況 出入口周辺の円滑な交通の確保状況	: 計画路線周辺のうち の代表的な地点	: 作成する詳細な設計図書、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事中	: 工事が完了する適切な時期
			環境影響 の調査	出入口周辺の交通状況	: 新横浜、馬場 生麦の3箇所の 出入口部	: 出入口周辺の交通状況の調査、既存資料の収集・整理及び現地確認	存在・供用	: 供用開始後の交通量が定常状態になる時期 （代表的な1日）	: 1回	具体的な調査時期は 詳細な設計図書を作 成した際に適切に設 定	
景観	存在・供 用	嵩上式 地表式 ・掘割式 構造物 換気所 施設の 存在	環境保全 対策等の 遵守状況	専門家の意見を取り入れた構造物のデザインや色彩状況 透明な遮音壁の設置状況 環境施設帯等への植栽状況 鶴見川周辺における専門家の意見を取り入れた高架構造物のデザインや色彩状況	~ : 計画路線全域のうち の代表的な地点	~ : 作成する詳細な設計図書、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事中	~ : 工事が完了する適切な時期	~ : 1回	具体的な調査地点・ 時期は詳細な設計図 書を作成した際に適 切に設定	
				環境影響 の調査	景観の変化の程度	: 主要な視点場6 箇所	: 写真撮影及び現地確認	工事中	: 工事が完了する適切な時期	: 1回	具体的な調査時期は 詳細な設計図書を作 成した際に適切に設 定
文化 財	存在・供 用	土地の 改変	環境保全 対策等の 遵守状況	改変する文化財の「文化財保護法」等に基づく調査の実施状況（「環境影響の調査」で調査） 改変する文化財の保存措置等の実施状況 周知の埋蔵文化財等に影響がある場合、工事の着手前の調査の実施状況（「環境影響の調査」で調査） 周知の埋蔵文化財等に影響がある場合、記録保存等の措置状況 工事中新たに遺跡等を発見した場合、届出の状況 工事中新たに遺跡等を発見した場合、調査の実施状況（「環境影響の調査」で調査） 工事中新たに遺跡等を発見した場合、記録保存等の措置状況	: 計画路線周辺のうち 、改変する地域に文 化財が存在する箇所 、もしくは新たに遺 跡等を発見した箇所	: 作成する詳細な設計図書、文化財調査結果、記録保存資料、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事着手前	: 工事着手前の適切な時期 （「環境影響の調査」実施後）	: 1回	具体的な調査時期は 詳細な工事計画を作 成した際に適切に設 定	
				環境影響 の調査	登録文化財、埋蔵文化財等の状況	: 改変する地域に 文化財が存在す る箇所、もしく は新たに遺跡等 を発見した箇所	: 作成する詳細な設計図書、文化財調査結果、記録保存資料、関連資料の収集・整理及び現地確認	工事着手前	: 工事着手前の適切な時期	: 1回	具体的な調査時期は 詳細な工事計画を作 成した際に適切に設 定
								工事中	: 工事期間中の適切な時期 （新たに遺跡等発見した直後）	: 継続	
									工事中	: 工事期間中の適切な時期 （新たに遺跡等発見した直後）	: 継続

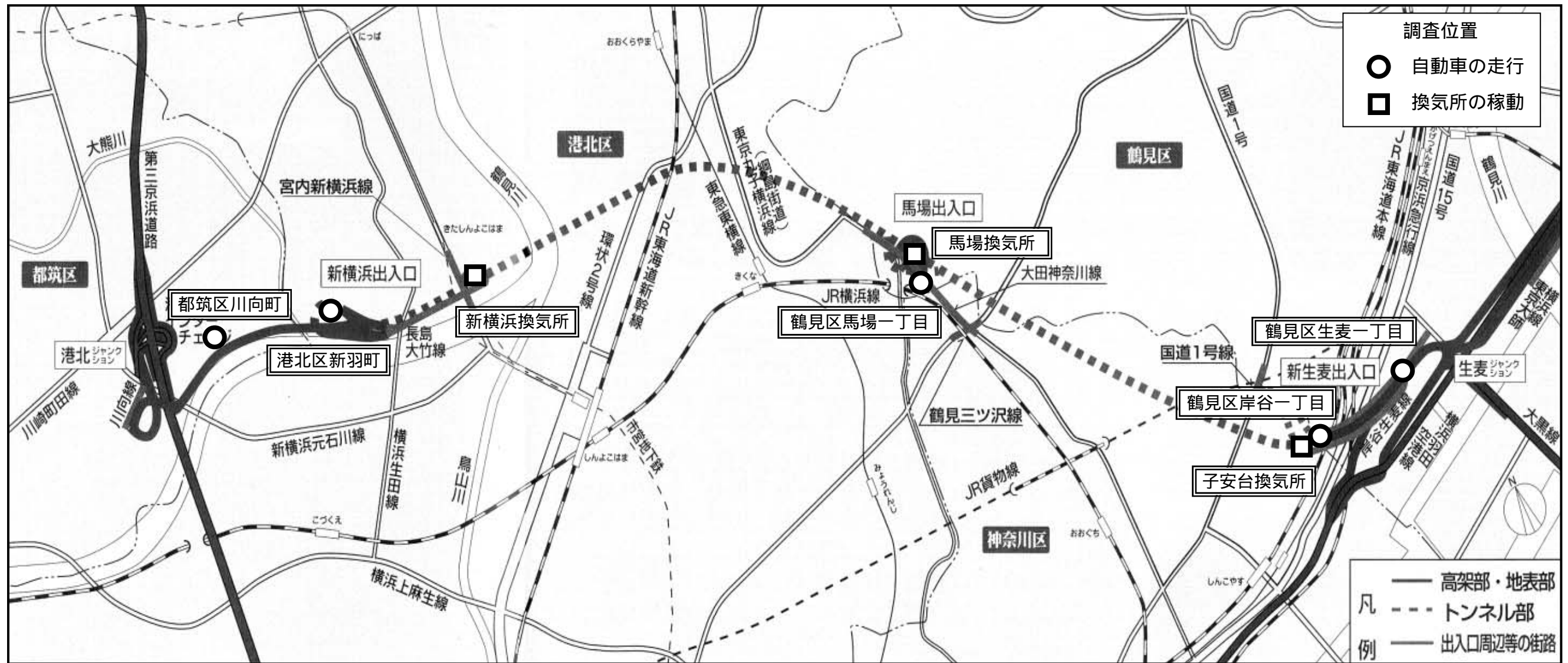


図-3 自動車の走行、換気所の稼働による大気汚染、騒音及び振動の調査地点位置図

4 . その他

1) 事後調査の結果により環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合の 対応方針

工事中及び存在・供用時の事後調査の結果が環境影響評価の予測結果と大きく異なる場合、つまり、当初予測できなかった事態が生じ、周辺に著しい影響を及ぼすことが懸念される場合には、必要に応じて関係機関の協力を得て、原因の究明や対策の検討を行い、環境保全のための適切な措置を講じます。また、原因の究明や対策の検討にあたっては、必要に応じて、専門家等の意見を踏まえながら、適切に対応します。

2) 事後調査の結果の公表の方法

事後調査の結果等については、横浜市等と連携を図って、ホームページ等を利用して、適宜、住民の方々に情報提供します。

お問い合わせ先

〒221-0013 横浜市神奈川区新子安 1 - 2 - 4

首都高速道路公団神奈川建設局建設第一部調査第一課

電話 045-439-0731 FAX 045-439-0772

<http://www.yokokan-kita.com/>